【サイダイコンシェルジュ】
SU
SAITAMA UNIVERSITY
知と技と社会の明日をつなぐ大学情報誌
Saitama University 埼玉大学
News Letter
Vol.34
February 2023

1 特集

教育学部附属特別支援学校 開校50周年記念式典を開催

特別支援教育における中心的な役割を果たしていくことを期待

2022年に開校50周年を迎えた埼玉大学教育学部附属特別支援学校は、去る2022年10月15日（土）に、これを記念した式典を開催しました。

式典に参列した埼玉大学 坂井貴文学長は祝辞の中で「これまでの活動で培ってきた教育力、研究力の一層の強化に加え、地域の学校、施設、機関と連携した総合的な特別支援教育への取り組みを一層進めていただきたい」と述べ、共生社会の形成に向けて、同校が中心的な役割を果たすことへの期待を表しました。

また、来賓からは、埼玉県教育委員会の髙田直芳教育長、さいたま市教育委員会の細田眞由美教育長、同校PTAの由川真人会長が登壇。同校の教育・研究における実績や子ども一人ひとりの自己実現を目指した教育方針などに言及し、これまでの活動に対する称賛と今後の期待を表しました。

▲教育学部附属特別支援学校 吉川はる奈 校長

▲記念誌の表紙、裏表紙、題字は在校生が書き上げました

卒業生たちが自らの手でタイムカプセルを開封

その後、同校の教員が自らの手で制作した50周年学校紹介動画「50年のあゆみ～つないだ歴史を次の50年に～」の上映と、開校30周年の際に封印されたタイムカプセルの開封式、「生徒代表の言葉」として生徒会長と副会長によるスピーチが行われました。

式典の最後には、埼玉大学 堀田香織教育学部長が「50周年を節目として、このバトンを次に託していくために、これからも特別支援学校の職員、PTAの皆様と共に子供たちのために精進していきたい」と挨拶。引き続き、社会の変化に対応しながら、地域の特別支援教育の教育・研究拠点として中心的な役割を果たしていく決意を述べ、式典を締めました。

▲開封したタイムカプセルからは、懐かしい写真などのアイテムが出てきました

2 学生 令和4年度10月期学生表彰を挙行 ―優れた学術研究・課外活動の成果を称えて―

10月26日（水）、令和4年度10月期学生表彰式を開催しました。

この表彰は、学術研究等の成果が優れている学生、課外活動の成果が特に顕著である学生、社会活動において優れた評価を受けた学生、その他表彰に値すると認められた学生を表彰する制度です。今回は個人表彰22名および団体表彰3団体に対して坂井学長から表彰状が授与され、学生後援会より記念品が贈呈されました。

▲坂井学長（前列中央）と受賞者ら

3 学生 初代埼大学生広報サポーター 14名が就任

10月14日（金）、埼大学生広報サポーターの任命式が開催されました。

当日は、公募により決定した14名のうち11名の学生が出席し、坂井学長より任命書の授与が行われました。坂井学長は挨拶にて、「大学としても初めての試みだからこそ色々なことができるので、学生の視点から様々なことに挑戦していただきたい」と、初代広報サポーターの学生へ激励の言葉を贈りました。

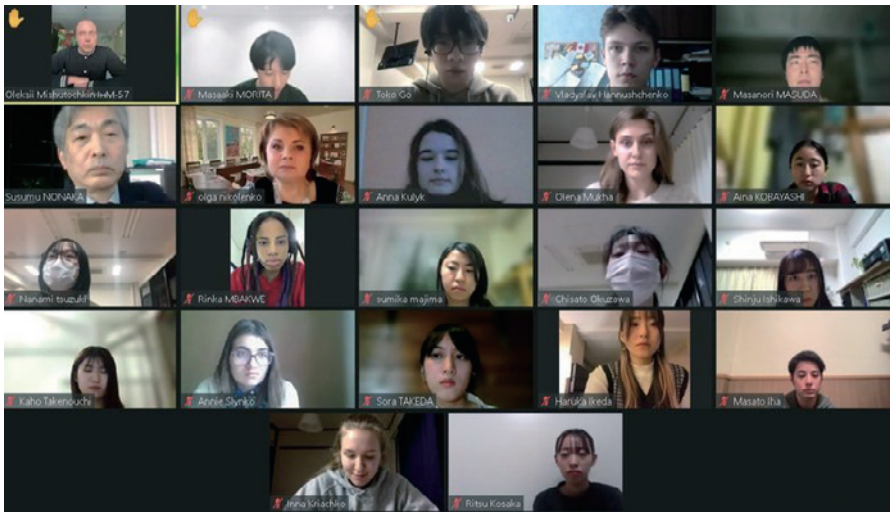
14名の学生広報サポーターは、今後埼玉大学の広報活動・地域連携活動をとおして、埼玉大学を更に盛り上げていきます！

▲記念撮影（前列中央左から、川合副学長（社会連携・広報担当）、坂井学長）

4 国際 ウクライナ ポルタワ教育大学、リヴィウ国立大学との共同セミナーが始まりました

埼玉大学、ウクライナ ポルタワ教育大学およびリヴィウ国立大学の3大学が共同で開催するオンラインウィンターセミナー「Perspective of Comparative and World Literature and Cultural Studies」が2020年、2021年に続き今年も開催され、11月29日（火）に初回授業が行われました。

厳しさが続くウクライナ情勢にあっても、日本とウクライナの相互理解や友情を深めるべく例年通りの開催となった本セミナーは、本学教養学部長 野中進教授とポルタワ教育大学 Olga Nikolenko教授がオーガナイザーを務め、初回講義には3大学から30名以上の学生が参加。野中教授は冒頭の挨拶において日本とウクライナの大学間で教育や文化の繋がりを持つことの重要性を述べ、厳しい状況にあるウクライナの学生、教員への埼玉大学からの支援を表明しました。3大学の学生達はその後、自己紹介や自身が興味のある学問分野の紹介などを行い、教員は戒厳令下に学ぶという特別な状況の意味や、戦争がもたらしたもの等について講義を行いました。



▲Zoomでの記念写真

5 同窓生 ホームカミングデー 2022を開催しました

11月26日（土）、ホームカミングデー 2022を開催しました。ホームカミングデーは卒業生、退職教職員、地域住民との交流の場として平成22年から開始され、今回で11回目の開催となります。

今年度は学園祭である「むつめ祭」との同時開催とし、本学フェローの株式会社クレディセゾン 代表取締役会長CEO 林野宏氏をお迎えした講演や各学部イベントを開催し、多くの方々にご来場いただきました。

2023年度もむつめ祭との同時開催を予定しておりますので、皆様お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

▲株式会社クレディセゾン 林野宏 代表取締役会長CEO

▲会場の様子

6 研究 令和4年度学長表彰表彰式を挙行

11月25日(金)、令和4年度学長表彰表彰式を開催しました。学長表彰は、職務に顕著な功績があった教職員や社会的な功績があった教職員を表彰することを目的として平成29年度に創設した制度です。このたびの表彰では、教育・研究活動に顕著な功績があった教員に「学長奨励賞(研究)」、「学長特別賞(みずき賞)」が授与されました。

式では、坂井学長から各受賞者に対し、表彰状及び副賞が授与されました。坂井学長は挨拶で、研究分野における各受賞者の功績を称えた後、新型コロナ感染拡大の困難な状況下にありながら高い研究成果を上げられたことは賞賛に値するものと述べ、「今後のご活躍も大いに期待しています」と激励しました。続いて、受賞者を代表して大学院理工学研究科の武田博明教授が挨拶を行い、自身の研究分野であるセラミックス分野の課題や今後の研究の展望などを織り交ぜながら、「今回の受賞を励みに、より一層精進して参りたい」と、決意を新たにしました。

▲（前列左より）学長奨励賞の菅野助教、武田教授、坂井学長、学長特別賞の津田准教授、学長奨励賞の荒木准教授
（後列左より）石井理工学研究科長、黒川理事、柳澤理事、松田理事、小林教育学部副学部長、福島総務部長

7 研究 第32回 吉田秀和賞を受賞（大学院人文社会科学研究科 新井高子准教授）

大学院人文社会科学研究科 新井高子准教授が第32回吉田秀和賞を受賞しました。

財団法人 水戸芸術振興財団が平成2年に創設したこの賞は、優れた芸術評論を発表した人に対して賞を贈呈し、芸術文化を振興することを目的としています。賞の贈呈式は11月12日（土）に同財団の運営する水戸芸術館会議場にて開催されました。

受賞作品
『唐十郎のせりふ 二〇〇〇年代戯曲をひらく』
（幻戯書房　令和3年12月刊）

受賞作品▶

8 教育 花咲徳栄高等学校向けに埼玉大学連携講座を開催しました

10月1日（土）および8日（土）、花咲徳栄高等学校の2年生を対象に埼玉大学連携講座を開催し、講義と実験体験を行いました。

今回は、講師を大学院理工学研究科 石川寿樹准教授が務め、自然環境中に生息する微生物が生産するカビ臭物質による水道水の汚染問題について講義を行い、実際に官能試験とPCR法を用いて、カビ臭生産菌かどうかを判定する実験も行いました。

参加した生徒の皆さんは、ティーチングアシスタントの学生の指導を受けながら班ごとに協力して実験を行い、「PCRの原理は難しかったけれど、実際にやってみると思ったより簡単にできて、コロナ検査のしくみを知ることができてよかった」、「同じ物質でも、人によってにおいの感じ方に差があるのが面白かった」、「生物を理解するのにも化学の知識が大事なことがわかったので、両方を勉強していきたい」などの感想が寄せられました。

▲実験の様子

9 産学官

脱炭素先行地域キックオフシンポジウムを開催

11月15日（火）、さいたま市産業文化センターにおいて、脱炭素先行地域キックオフシンポジウム「カーボンニュートラルな社会をめざして－さいたま発の公民学によるグリーン共創モデル－」を開催し、産業界、自治体や大学関係者等126名の方に参加いただきました。

第1部では、さいたま市、埼玉大学、芝浦工業大学および東京電力パワーグリッド株式会社埼玉総支社の4者より、「脱炭素先行地域の取組」について講演が行われ、本学からは、黒川理事（研究・産学官連携担当）・副学長より、「電力カーボンニュートラル化に向けた埼玉大学の取組み」と題する講演が行われました。

また、第2部では芝浦工業大学、埼玉大学より「カーボンニュートラル実現のための要素技術」についての研究発表が行われ、本学からは、大学院理工学研究科の山納教授および柳瀬准教授より、それぞれ「電力の有効利用に向けた電気・電子技術」、「セラミックス材料による二酸化炭素の回収技術」と題した発表が行われました。

本学は引き続き、カーボンニュートラル社会の実現に向けて、地域社会に貢献してまいります。

▲黒川秀樹理事（研究・産学官連携担当）・副学長

▲大学院理工学研究科 山納康教授

▲大学院理工学研究科 柳瀬郁夫准教授

埼玉大学基金室より 埼玉大学修学サポート基金のご案内

埼玉大学基金は目的別に3種類の基金がございます。今回はそのうちの1つ「修学サポート基金」をご紹介させていただきます。「修学サポート基金」は、経済的な理由により修学に困難がある学生を支援するため、埼玉大学基金内に置かれる特定基金として2016年末に設立したものです。

皆さまからのあたたかいご支援により、本基金からコロナ感染拡大の影響により、生活に支障をきたしている学生2,866人に対し、2020～2021年度に「緊急支援奨学金」として1人あたり自宅生3万円、自宅外生5万円を給付することができました。

また、「コロナ禍フード支援プロジェクト」として、2021年度には『100円食堂』、2022年11月～12月には、1食あたり350円を補助する『自分定食』を実施し、計約18,000食を学生食堂で提供することができました。

皆さまからの多大なるご支援に改めて御礼申し上げます。これからも、学生生活に支障をきたすことがないよう継続したサポートを行っていく所存です。

今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

学生食堂で「自分定食」を利用する学生

◆埼玉大学基金へのご寄附の累計額

令和4年 12月末の状況	682,221,078円
うちリサイクル募金 きしゃぽん によるご寄附	1,427,890円

埼大みらい基金

埼玉大学 修学サポート基金
経済的理由により修学に困難がある学生等の支援

冠奨学金基金

授業料・入学料減免事業
奨学金事業
海外留学支援事業
TA・RA事業※

※学生の資質を向上させることを主たる目的として、学生を教育研究に係る業務（TA：ティーチング・アシスタント、RA：リサーチ・アシスタント）に雇用するために係る経費に充てられます。

お問い合わせ先 埼玉大学基金室（総務部広報渉外課内）048(858)9330 s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp

サイダイコンシェルジュ SU News Letter Vol.34 2023年2月発行
編集発行／埼玉大学総務部広報渉外課 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 255 TEL：048(858)3932 Fax：048(858)9057 E-mail：koho@gr.saitama-u.ac.jp